

試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 林業研究センター

所 管 課（室） 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	本県に適した高品質で優良な品種の開発と家畜の改良	スギ雄性不稔個体の育種と早期育成法の開発	林業面からの花粉症対策として、花粉の飛ばないスギの育種を確立し、その苗木を早期に提供する。	<p>雄性不稔と思われる個体を新たに2個体発見した。また、不稔遺伝子の相同性確認やF2苗作出のための人工交配を計画通り実施した。</p> <p>今後は、雄性不稔個体の探索を継続すると共に、F2苗作出のための人工交配及びF2苗の花粉粘性検定により、数多くの新たな雄性不稔個体を見つけ出す。また、小型挿し穂を用いた挿し木増殖手法を検討し、苗木の早期供給に結びつける。</p>	18	22	A	<p>精英樹に雄性不稔性を付加したスギ苗木の早期供給を図ることに加え、新たな花粉の飛散抑制技術の検討を行うことは、林業面からの花粉症対策として有効であることから優先して拡充されるべきである。</p>	<p>花粉症対策として、花粉の飛散しないスギ育種の開発に取り組み、新たな花粉飛散抑制技術の確立につながる種々の知見が得られており、興味深い。研究ニーズも非常に高いことから、本研究は優先して拡充されるべきと判断される。</p>
2	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	在来軸組工法における構造部材の接合技術の確立	在来軸組工法について、高い耐力性能が保証できる接合技術を確立して木造住宅の信頼性向上を図り、住宅資材への県産材利用を拡大する。	<p>在来軸組工法の接合部位別に検討を進め、柱と梁の接合部材の乾燥条件が強度に与える影響及び柱頭柱脚部の接合方法として安価で天然系材料である込み接合について強度を検討した。</p> <p>今後はさらに梁と梁の接合部と柱頭柱脚部の接合強度データの蓄積を行い許容耐力を明確にした利用指針等の作成を行う。</p>	17	21	B	<p>高い耐力性能を有し、金物を利用しない在来軸組工法の接合技術を確立するためには、木質接合の強度試験によるデータの蓄積が必要であることから、研究を継続すべきである。</p>	<p>具体的に従来のような接合技術の強度の差異などを明確にすることにより利用しやすくなると考えられる。</p>

試験研究（中間）評価整理表